

藝備
地理
歷史

三
谷
福
三

特47

427

025839-000-4

特47-427

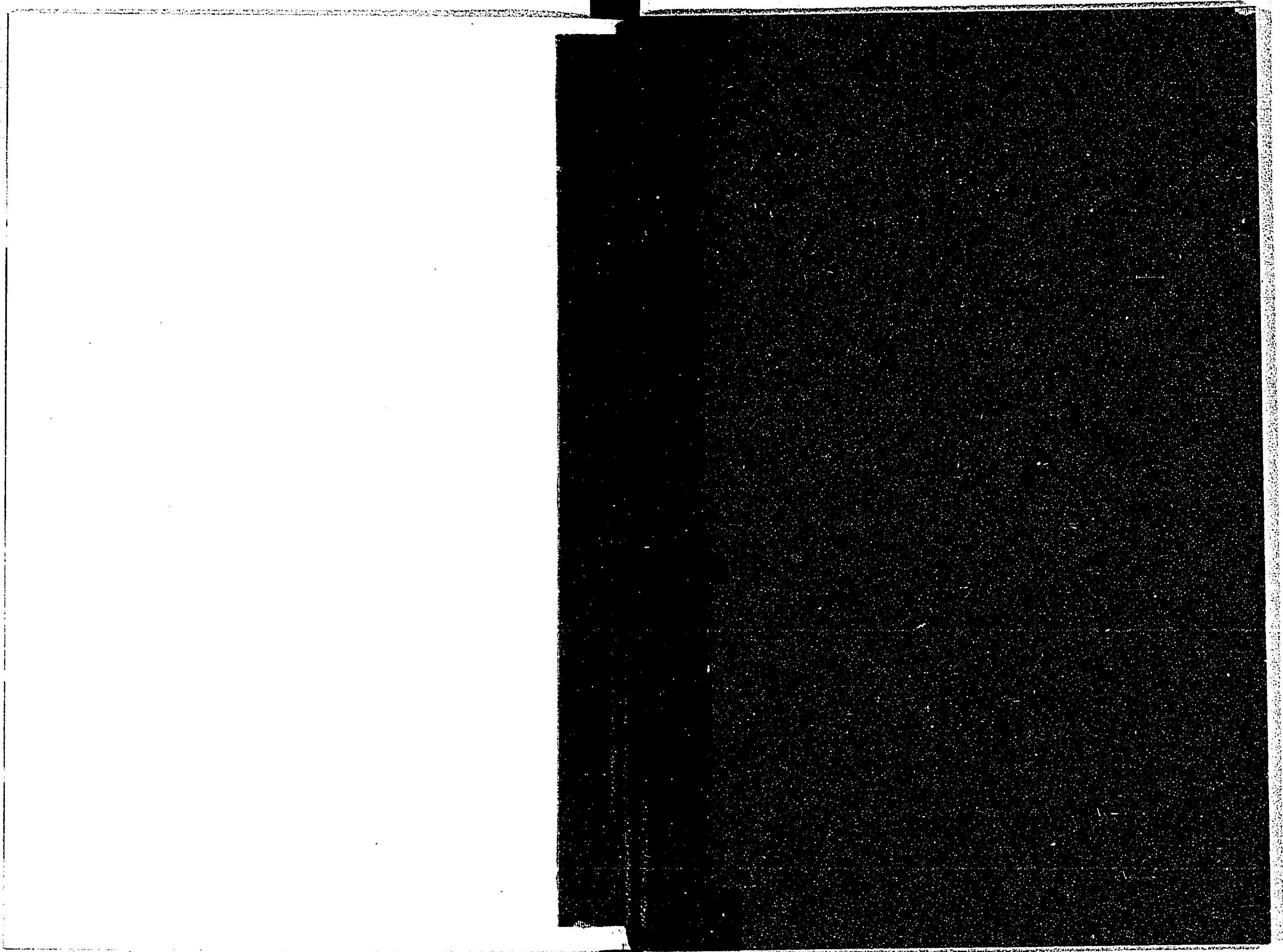
藝備地理歷史

三谷 福三郎 / 編

M28

ADC-3392





166
520

藝
士也
理
歷
史

澁谷榮造
三谷福三郎
編纂

尾道

芸香堂發行

特47

427

藝 備 地 理 歷 史

澁谷榮造
三谷福三郎
編纂



郷土地理部

尾道

芸香堂發行

緒言

一 本書ハ改正小學教則ノ主旨ニ基キ高等第一學
年ノ生徒ヲシテ地理ノ要領ヲ知得セシメ確實
ノ觀念ヲ與ヘント欲スルモノナレハ能ク事實
ヲ撰擇シ可成的用語ヲ簡明平易ニセリ
一 從來編纂ノ地理書多クハ管内全般ニ係ルモノ
ナレハ此書ハ地理ノ端緒ニ始マリ管内ノ沿革
ニ終ル是レ郷土地理編成ノ体ナレバナリ
一 戸數人口年代里程等ハ緊要ノモノ、ミ之ヲ記
載スレヒ其大數ニ止ム

明治二十六年八月

小學校 生徒用 郷土地理

第一編 地理ノ端緒

第一章 方位

日ノ出ツル方ヲ東ト云ヒ日ノ入ル方ヲ西ト云フ今立テ
 右ノ手ニテ東ヲ指シ左ノ手ニテ西ヲ指セハ前ノ方ヲ北ト
 シ後ノ方ヲ南ト云フ而シテ此東西南北ヲ四方ト云フ
 又西ト北トノ間ヲ西北(乾)ト云ヒ西ト南トノ間ヲ西南(坤)ト
 云ヒ東ト南トノ間ヲ東南(巽)ト云ヒ東ト北トノ間ヲ東北(艮)
 ト云フ總ヘテ此等ノ方角ト四方トヲ稱シテ方位トハ云ナ
 リ

復習問題

日ノ出ツル方ヲ何ト曰フカ○日ノ入ル方ハ如何○北ト東ノ間ヲ

何ト曰テカ○東ト南ノ間ハ何ゾ○南ト西トノ間ハ何ゾ○西ト北トノ間ハ何ゾ○四方トハ如何○方位トハ如何

第二章 距離

物ハ方位ニ由リテ其何レノ方ニアルカヲ知ルコトヲ得レドモ其遠キ或ハ近キハ未ダ知ルコトヲ得ズ故ニ一物ヨリ他物ニ至ル間ノ長サニヨリテ兩物間ノ遠近ヲ知ラザルベカラズ此遠近ノ度ヲ稱シテ距離ト云フ

復習問題

一物ヨリ他物ニ至ル遠近ハ何ニ由リテ知ルヤ○遠近ノ度ヲ稱シテ何ト云フヤ

第三章 尺度

距離ヲ度ルニハ一定ノ長サヲ用フ之ヲ尺度ト稱ス今一尺ヲ基本トスレハ其十分一ノ長サヲ一寸ト云ヒ一寸ノ十分一ノ長サヲ一分ト云フ又六尺ヲ一間ト云ヒ六十間ヲ一町ト云ヒ三十六町ヲ一里ト云フ然レニ物ト場合トニ由リテ名稱ヲ異ニスルコトアリ例ヘバ家屋ノ長サヲ幾間ト云ヒ道程ノ長サヲ幾里幾町ト云フガ如シ又廣狹ヲ表ハスニ坪方里等ノ名稱アリ坪トハ一間四方ノ廣サヲ云ヒ方里トハ一里四方ノ廣サヲ云フ

復習問題

尺度トハ如何○一尺ノ十分一ハ何ゾ○二尺ノ内ニハ寸ノ數幾ツアルカ○一里ハ幾町ナルカ○家屋ノ長サハ如何ニ○一間四方ノ

第四章 地圖

上ヨリ見下シタル所ノ大略ヲ寫シタルモノニシテ繪圖ハ側面ヨリ寫シタル者ナレハ地圖ト繪圖トハ自カラ異ナレリ故ニ教室ノ廣狹又室内ニアル諸物ノ位置大小等ヲ能ク人ニ語ラントセハ其地圖ヲ畫クニ如クハナシ

復習問題

地圖トハ如何○廣狹位置大小等ヲ精密ニ示ス法如何

第五章 教室

此教室ハ番教室ニシテ横間縦間面積坪ナリ正面ニ塗板ヲ掛ケ中央ニ机腰掛ヲ列シ以テ授業ノ用ニ供ス

復習問題

間ト間トノ坪數幾何○塗板ハ何レノ部ニ掛ケルヤ

第六章 學校

尾道高等小學校ハ廣大ナル學校ニシテ生徒ハ殆ンド千人ヲ容ルベク北方大寶山ニ對シ南ハ海ヲ距テ、向嶋(古歌島ト云フ)ト相望ム四時ノ眺望絶佳ニシテ空氣甚タ清良ナリ

復習問題

尾道高等小學校ハ生徒凡幾人ヲ容ルヘキヤ○北ハ何山ニ對スルヤ○南ハ何島ト相望ムヤ○四時ノ景如何

第二編 尾道

第一章 総論

尾道ハ廣嶋ヲ距ル東方二十二里御調郡ノ東南隅ニアリ後
 ハ山ヲ負ヒ前ハ向島ニ對シテ其間一ノ海峽ヲナス尾道ノ
 瀬戸是レナリ北方一帶ハ即港ニシテ水深ク風波ヲ避クル
 ニ便ナリ巨商富賈軒ヲ並ベ港内ニハ帆檣常ニ林立シ海上
 漁笛ノ聲ハ陸上漁車ノ音ト相應シテ晝夜絶エス海陸ノ交
 通斯ク便利ナルヲ以テ商船旅客遠トシテ至ラザルナク百
 貨輻湊シ埠頭山ヲナス居民ハ性質機敏ニシテ伶俐特ニ商
 業ノ才アリ是レ大阪以西最モ著名ノ商業地タル所以ナリ

復習問題

尾道ハ御調郡ノ何方ニアリヤ○交通ノ便利如何○居民ノ性質如

何

第二章 境界幅員

尾道ハ東沼隈郡山波村ニ接シ東北ハ沼隈郡高須村及ビ美
 郷村ニ界シ西ハ栗原村吉和村ニ接ス而シテ南方一帶海ヲ
 隔テ、向嶋ニ對セリ幅員東西四十壹町餘南北貳十五町餘
 アリ

復習問題

境界ヲ問フ○幅員幾何アリヤ

第三章 戸數人口大字小字

戸數四千三百餘(明治廿六年四月調査)人口壹万七千餘(全上)アリ大字
 ハ尾崎久保土堂十四日東御所西御所ノ六ヶ町ニシテ小字

ハ中濱藥師堂小路等百八十餘アリ

復習問題

人口戸數ヲ舉ゲヨ○大字小字ノ數ヲ問フ

第四章 地勢氣候

北方一帶總テ丘陵ニシテ唯長江通ノ一路ヲ通スルノミ東ニ聳ユルモノハ瑠璃峯ニシテ西ニ聳ユルモノハ大寶山ナリ中央ニ愛宕山アリ氣候ハ四時温和ニシテ冬日雪ヲ見ルニト稀ナリ

復習問題

地勢ハ如何○中央ノ山ヲ何ト云フヤ○氣候ヲ問フ

第五章 官廳學校諸會社神社佛閣

御調世羅郡役所ハ西今町ニ在リ町役場ハ久保河端ニ在リ郵便電信局ハ土堂曲リニ在リ其他裁判所警察署監獄署收稅署商業學校尋常小學校銀行諸品會社等各所ニ散在セリ町内神社佛閣ノ大ナルモノ甚ダ多シ淨土寺西國寺天寧寺等ハ最モ巨刹ナリ千光寺(大寶山ニ在リ)ハ特ニ風景ヲ以テ著ハル淨泉寺ハ元大伽藍ナリシカ明治二十二年一朝出火ノ爲ニ盡ク燒失セリ惜哉八幡神社嚴嶋神社天神社良神社ノ如キハ皆宏壯ノ大社ナリ住吉神社ハ海濱ニ在リテ夜景最佳ナリ

復習問題

郵便電信局ハ何處ニ在リヤ○佛寺ノ巨夫ナルモノ、名ヲ舉ケヨ

○淨泉寺ハ明治何年ニ燒失セシヤ○大社ヲ問フ

第六章 生業物産

商賣ヲ以テ主トナシ工業之ニ次グ物産ノ重ナルモノハ藺
席(世ニ備後表ノ名アリ海内無比ト稱ス)酢切石錨鉄器等ナリ

復習問題

生業ノ主ナルモノハ如何○物産ヲ擧ケヨ

第七章 習俗

人民ノ性質ハ温和伶俐ニシテ文雅ヲ好ム宗教ハ大抵佛教
ヲ奉ズ又神道ヲ奉スルモノアリ

復習問題

人民ノ性質ハ如何○如何ナル宗教ヲ奉スルヤ

第八章 沿革

尾道ハ往古玉ノ浦ト云フ天平八年六月朝廷使ヲ新羅國ニ
遣ハサル、時使人等此地ヲ詠シタルユトアリ降テ天慶年
中伊豫掾藤原純友ノ反スルヤ尾道六郎ト云ヘルモノ之ニ
應シタリキ天正十二年杉原民部大輔元經千光寺山ニ在城
シ之ヲ領ス徳川幕府ノ時福島正則ノ封セラル、ヤ其領地
トナリ嗣テ淺野氏ノ封地トナリ維新ノ際廣嶋縣トナリテ
ヨリ更ニ變動ナク以テ今日ニ至レリ

復習問題

尾道ノ古名ハ如何○千光寺山ニハ誰カ在城セシヤ○徳川幕府ノ
時誰氏ノ領地ナリシヤ

第三編 御調郡

第一章 位置境界

御調郡(古書ニ水貢或ハ水調ニ作ル) 備後國ノ西南隅ニ位シ東ハ沼隈蘆田ノ二郡ニ接シ西北ハ世羅郡ニ隣リ西ハ安藝國豊田郡ニ界シ南ハ海ニ臨メリ

復習問題

御調郡ハ何國ニ属スルヤ○西北ハ何郡ニ隣リスルヤ○西ハ何國何郡ニ界スルヤ○南方ハ如何

第二章 面積町村

面積ハ凡二十方里ニシテ其五分ノ一ハ嶋ナリ町村ハ二町三十三ヶ村アリテ内十壹ヶ村ハ島ニ屬ス

復習問題

面積ヲ問フ○町村ノ數幾何アリヤ

第四章 地勢交通

地勢ハ西北ヨリ南東ニ傾キ山嶺多クハ東西ニ亘レリ國道ハ東沼隈郡山波村ヨリ來リ西豊田郡ニ通ス又尾道ヨリ世羅郡甲山ニ通スル縣道アリ三原町ヨリ羽和泉村ヲ經テ甲山ニ通スル道路アリ尾道ヨリ木梨ヲ經テ府中市ニ達スルノ道アリテ交通便利ナリ

復習問題

地勢ハ如何○國道ノ道筋ヲ記セ○三原町ヨリ甲山ニ通スル道路ハ如何

第五章 有名町村

尾道町三原町ハ郡内屈指ノ繁華ナル所ナリ市村ハ尾道ヲ
距ル四里ニ在リテ一小市街ヲナセリ宇津戸村ハ市村ヨリ
一里半アリテ甲山ニ至ル道筋ナリ久井村ハ西北隅ニ在リ
テ古杭ノ莊ト稱ス今尙牛馬市ノ盛ナルヲ以テ其名著ハル

復習問題

市村ハ尾道ヲ距ル幾里ニアリヤ○久井村ノ古名ハ如何○久井村
ノ名高キ所以ヲ問フ

第六章 山及ビ川

向島ニ高見山アリ因嶋(古周島ト云フ)ニ大山白瀧山アリ貢村ニ鉢
ヶ峰アリ龍王山及ビ木頃山ハ高峻ニシテ郡ノ中央ヲ劃レ
リ宇根山ハ郡ノ北境ニ聳エテ世羅郡ニ跨レリ郡中第一ノ
高山ナリ

三成川ハ深田村ノ山中ニ發シ東ニ流レテ本郷川等ノ諸流
ヲ併セ沼隈郡ニ入リテ松永灣ニ注グ御調川ハ久井村ノ山
間ヨリ發シ南流シテ坂井原村ヲ過キ東ニ折レテ市村等ヲ
經下川邊村ニ至リテ蘆田川ニ入ル郡内第一ノ大川ナリ

復習問題

向島ニ何山アリヤ○因島ノ二高山ヲ問フ○郡ノ中央ニアルニ高
山ヲ問フ○宇根山ハ何郡ニ跨ルヤ○三成川ハ何村ヨリ發シ何郡
ニ入ルヤ○郡内第一ノ大川ヲ問フ

第七章 生業

北部ノ人民ハ多ク農業樵等ニ從事シ吉和村向嶋東村全西
村等ニハ鹽業家多シ美郷村近傍ノ各村ニハ盛ニ藺席ヲ製
ス其他商業等種々ノ業務ニ從事セリ

復習問題

北部人民ノ生業ハ如何○鹽業家ノ多キ村ヲ問フ

第八章 産物

郡中有名ナル産物ヲ舉グレバ三原町ハ米煙草鑄物等ヲ産出シ向嶋岩子嶋因島等ノ各村ハ皆甘藷ヲ作ル其額甚ダ多シ又木綿ヲ織リ出ス向嶋東村ノ歌牡蠣ハ其名昔ヨリ高シ田熊村ハ多ク果類ヲ産シ三庄村ハ柿ヲ産ス貢村字木原ハ葱大根ヲ以テ名アリ深田村字深ノ里芋諸田村字諸毛ノ牛蒡等ハ何レモ其名著ハル美郷村近傍ノ各村ハ盛ニ藺ヲ作ル宇津戸村ノ鑄物ハ古來有名ナリ

復習問題

三原町ノ産物ハ如何○諸島ノ産物ヲ問フ○歌牡蠣ハ何村ヨリ産

スルヤ○果類ヲ以テ名高キ村ヲ舉ゲヨ○木原深諸毛ノ有名ナル農産物ヲ問フ○美郷村近傍ノ各村ニハ専ラ何ヲ作ルヤ○鑄物ヲ以テ有名ナル村ヲ問フ

第九章 習俗宗教

概シテ敏捷活潑伶俐ノ風アリ其能ク他方ニ往來交通シテ利益ヲ圖ルニ勉強スルハ尤モ賞スヘキ點ナリ宗教ハ大抵佛教ヲ奉ス又神道ヲ信スルモノアリ

復習問題

性質ハ如何○氣象ハ如何○宗教ハ何ヲ奉スルヤ

第十章 沿革

御調郡ハ上古六郷ト稱ス郡内元三町九十壹ヶ村アリ明治

三十二年四月合併シテ二町三十三ヶ村トス

復習問題

上古ハ何ト稱ヘシヤ○元ノ町村數ヲ問フ○現今ノ町村數ハ如何

第四編 廣嶋縣

第一章 總論

廣島縣ハ幅員甚ダ廣ク東西三十里余南北二十八里余アリ
東部ヲ備後國ト云ヒ西部ヲ安藝國ト云フ戸數凡二十六万
人口凡百三十万アリ大抵土地高ク山最モ多シ南部ノ諸郡
ハ田圃多クシテ產物ニ富ミ賀茂ヨリ沼隈ニ至ル四郡ノ沿
海ハ鹽田多シ中部以北ノ諸郡ハ山脈多ク北境ニ至リテハ
山嶺相重リテ山間僅カニ部落ヲ見ルノミ海岸ハ屈曲多ク
長凡八十里ニ及ビ海上ニ嶋嶼百餘アリ

復習問題

幅員ハ如何○東部ノ國ヲ何ト云フヤ○戸數及ヒ人口ノ數幾何○
地勢ハ如何○中部以北ノ地勢ハ如何○海岸ノ長幾何○島嶼ノ數

第二章 區劃

安藝國ヲ大別シテ安藝佐伯沼田高宮山縣高田賀茂豊田ノ
八郡トシ備後國ヲ大別シテ御調沼隈深津安那品治蘆田世
羅甲奴神石三谿三上奴可惠蘇三次ノ十四郡トシ更ニ之ヲ
小別シテ數多ノ町村トス

又施政上ノ便ヲ計リ縣内ヲ十二ニ分チ一市十一郡役所ヲ
置キテ之ヲ治ス左ニ其名稱及ビ位置ヲ記スベシ

- 廣嶋市役所
- 佐伯郡役所
- 沼田高宮山縣郡役所
- 中島新町
- 廿日市町
- 高宮郡可部町

- 高田郡役所
- 安藝郡役所
- 賀茂郡役所
- 豊田郡役所
- 御調世羅郡役所
- 三次三谿郡役所
- 奴可三上惠蘇郡役所
- 芦田品治神石甲奴郡役所
- 深津沼隈安那郡役所
- 吉田村
- 吳
- 西條町
- 忠海町
- 御調郡尾道町
- 三次郡三次町
- 三上郡庄原村
- 蘆田郡府中市村
- 深津郡福山町

復習問題

安藝國ノ郡數ヲ問フ○備後國ハ幾郡アリヤ○賀茂郡役所ノ所在
地ヲ問フ○福山町ニ在ル郡役所ノ名如何

第三章 氣候

氣候ハ寒暑共ニ中和ナリ唯北部地方ハ霜雪甚ダ早ク冬時積雪ノ爲メニ人馬ノ交通ヲ絶ツユトアリ風雨ハ年々一定シテ暴風霖雨ノ災少ク降雹地震等ハ極メテ稀ナリ

復習問題

氣候ハ如何○北部地方冬日ノ有様ハ如何

第四章 山及ビ川

山岳ノ高大ナルモノ頗ル多シ北部一帶最モ高峻ヲ極ムテ尾山ハ山縣郡ニ在リテ其巔南北二海ヲ臨ムベシ南方海岸ニアルモノハ熊ヶ峯鉢ヶ峯野呂山灰ヶ峯等ナリ中央部モ亦高山多シト雖モ一々枚擧スルニ暇アラズ要スルニ大抵

諸山ニシテ野草雜樹ヲ生スルニ過ギズ其良材ニ富メルハ僅ニ惠下山アルノミ噫山林繁茂セズ河川時ニ乾涸ス憂フベキ哉
川ノ最モ大ナルモノ中央ニ太田川アリ東部ニ蘆田川アリ西部ニ大竹川アリ而シテ北方山中ノ諸流ハ合シテ數川トナリ三次ニ會シテ大河トナリ石見國ニ入リテ江ノ川トナル其地河川甚ダ多シ皆諸種ノ淡水魚ニ富メリ鮎鯉及ビ鮭等ハ其最タル者ナリ

復習問題

良材ニ富メル山ヲ問フ○山縣郡ノ高山ヲ問フ○南方海岸ニアル諸高山ヲ擧ケヨ○中央ノ大川ヲ問フ○東部ニ何川アリヤ○西部ノ大河ヲ何ト云フヤ○北部ノ諸川ニ何處ニ會シ何國ニ入リテ何

第五章 岬灣島嶼

深津沼隈御調豊田賀茂安藝沼田佐伯ノ八郡ハ即チ海ニ接スルノ地ニシテ沿岸凡八十里岬灣出入シテ嶋嶼頗ル多ク風景絶美ニシテ今ヤ内外人ノ歎賞スル處トナレリ住民ハ大概捕魚耕作ヲ主トス耕地ハ田少クシテ畑多シ概チ甘藷ヲ種エテ常食ニ充ツ

沼隈郡ノ南端ニ阿伏兎岬アリ斜ニ田島ニ對ス岩上ニ觀音堂ヲ建ツ風景奇絶ナリ其東南ハ即水嶋灘ナリ

御調郡ノ海上ニ向島因島岩子島等アリ

豊田郡ニ大崎島生口島等アリ大崎下島ニ御手洗港アリ船

船碇泊ノ良港ナリ上方ノ峰ハ滿山皆桃林ニシテ花時ノ風
光頗ル愛スヘシ

蒲荊島(安藝郡)ハ上下二島ニ分ル賀茂郡ニ對シテ其間一ノ
海峡ヲナス之ヲ猫瀬戸ト云フ嶋中石灰密柑ヲ産ス

瀬戸渡子倉橋(安藝郡)ハ周回二十五里餘ノ一島ニシテ地方
ニ從ヒ其名稱ヲ異ニス縣下第一ノ大嶋ナリ北方ノ地昔時
一地峽ナリシガ平清盛ノ安藝守タリシ時開鑿シテ舟路ヲ
通セリト之ヲ穩渡ノ瀬戸ト云フ其間僅ニ五十餘間ニ過キ
ズ

江田嶋(安藝郡)ニ海軍兵學校アリ近年ノ設置ナリ
能美島(佐伯郡)及ヒ巖嶋(全上)以北ヲ廣嶋灣ト云フ海上ニ似
嶋(安藝ノ小富士)等ヲ小嶋アリ

嚴嶋ハ一ニ宮嶋ト云フ日本三景ノ一ニシテ嚴島神社アリ
社殿ハ平清盛ノ造營スル處ニシテ潮水至レハ恰モ水上ニ
浮ブガ如シ風光最モ愛スベシ竹細工盆等ノ名産アリ

復習問題

海ニ接スル諸郡ノ名如何○島嶼ノ住民ハ如何ナル事ヲ業トスル
ヤ○島地ニ於ケル田ト畑トハ何レカ多キヤ○島民ノ常食ハ如何
○阿伏兔岬ハ何郡ニ在リヤ○阿伏兔岬ヨリ南方ノ灘ヲ問フ○御調
郡海上ノ諸島ヲ舉ケヨ○豊田郡ノ二大島ヲ問フ○大崎下島ニア
ル港ヲ問フ○賀茂郡ト蒲荻島トノ間ノ瀬戸ヲ問フ○蒲荻島ノ産
物ハ如何○縣下第一ノ大島ヲ問フ○穩渡ノ瀬戸ハ其幅幾何アリ
ヤ○海軍兵學校ハ何島ニ在リヤ○能美島及ヒ嚴島以北ノ灣ヲ何
ト云フヤ○嚴島ハ一ニ何島ト云フヤ○嚴島社殿ハ誰ガ造營セシ
ヤ○嚴島ノ名産ハ如何

第六章 都 邑

神邊ハ安那郡南部ノ驛路ニシテ尾道ノ東六里餘ニ在リ往時頗ル繁盛ノ地ナリシガ水野氏ノ治所ヲ福山ニ移スニ及ビ大ニ衰微セリト云フ詩人菅茶山ハ此地ニ生ル

福山ハ尾道ヲ距ル五里餘東方ノ一都會ナリ戸數三千二百餘人口凡壹万五千アリ舊阿部氏ノ治所ナリ産物ノ主ナルモノハ練綿生糸木綿及ビ素麵ナリ學校諸官衙等アリ城廓凡二百七十年前水野氏ノ建築ニ係ル今毀テ公園トス韌ハ尾道ノ東海上五里ニ在リ船舶ノ碇泊便利ニシテ眺望甚佳ナリ北方ニ沼名前神社アリ此地ノ保命酒ハ人ノ普ク知ル所ナリ

松永ハ尾道ノ東二里餘ニ在リ鹽業甚ダ盛大ナリ

今津ハ尾道ノ東二里ニ在ル一小市ナリ

松濱ハ尾道ノ西二里ニ在リ港内廣深ニシテ大船ノ碇泊ニ

便ナリ其東ヲ糸崎ト云フ古名ヲ長井ノ浦ト稱ヘ古昔神功

皇后ノ御船ヲ泊セラレシ地ニシテ今尚ホ長井ノ水ノ古蹟

アリ眺望佳絶其名夙ニ著ハル

三原ハ尾道ノ西三里半ニ在リ古來有名ノ城市ニシテ商業

稍盛ナリ其西ニ西野村アリ梅林ヲ以テ其名高シ

本郷ハ尾道ノ西六里豊田郡ノ南部ニ在リ此地ノ東北二里

ニシテ佛通寺アリ極メテ静閑ノ勝地ナリ

瀬戸田ハ生口嶋ニ在ル佳港ナリ市街稍盛ナリ素麵ヲ産出

ス

忠海ハ尾道ノ西海上六里ニ在ル港市ナリ

竹原ハ賀茂郡ノ東南隅ニ在ル一市街ナリ富商多シ儒家頼

春水(頼山陽ノ父)ハ此地ヨリ出デタリ其他三津(酒造家多シ)内海等ハ

皆著名ノ小市ナリ

吳ハ安藝郡ニ在リ舊微々タル漁村ニ過ギザリシガ近時軍

港トナリシヨリ俄ニ繁盛トナレリ

海田市ハ廣嶋ノ東二里半ニ在リ其西北ニ府中村アリ國府

ノ遺趾ニシテ埃宮(神武天皇此地ニ駐ルコト三年)ノ宮趾モ亦此地ナリト云フ

廣嶋ハ中國第一ノ大都會ニシテ太田川ニ跨リ市街一里四

方ニ連ル人口九万餘市街甚ダ繁華ナリ廣嶋縣廳アリ第五

師團兵營アリ其他學校病院神社寺院等頗ル多シ南方ニ宇

品港アリ近來波止場ヲ築キ大ニ船舶ノ寄泊ニ便セリ產物

ノ主タルモノハ傘建具牡蠣海苔等ナリ
 廿日市ハ廣島ノ西三里半ニ在リ多ク材木薪炭類ヲ積出ス
 市街稍盛ナリ
 可部ハ廣嶋ノ北四里餘ニ在リ雲石往來ノ衝ニ當リ貨物出
 入ノ多キユト尾道ニ亞グ山藪細ハ此地ノ特産物ナリ
 吉田ハ吉田川ノ北岸ニ在リ古昔毛利氏ノ城市ナリシガ(郡
 ノ麓ニ元就及ヒ一族ノ墳墓アリ)現時ハ山間ノ一小驛ノミ麻ノ良品ヲ産ス
 三次ハ北方ノ一大市ナリ尾道ヲ距ル十八里餘市街甚ダ盛ナ
 リ諸川此地ニ集リ合シテ石見ニ入り江ノ川トナル氣候頗
 ル寒冷春分ニ至リ梅花始メテ開ク産物ハ麻鮎鯉鮓等ナリ
 西條ハ尾道ノ西十三里餘國道中最高地ニ在ル小市ナリ
 三良阪及ヒ吉舎ハ共ニ三谿郡中ノ小市ナリ

甲山ハ尾道ノ北七里ニアル驛路ニシテ今高野山ノ舊寺アリ
庄原ハ三上郡ノ西南隅ニ在ル山間ノ小市ナリ生糸紙及ヒ
茶ヲ産ス
東城及ヒ西城ハ共ニ奴可郡中ノ小市ナリ
上下ハ甲奴郡ノ南部ニ在ル一小市ナリ
油木ハ神石郡ノ小市ナリ
府中市ハ尾道ノ東北七里ニ在リ稍繁華ノ市街トス刻煙草
味噌等ヲ産ス

復習問題

神邊ハ何郡ニ在リヤ○神邊ノ繁盛ハ何故ニ衰微セシヤ○詩人菅
茶山ハ何處ニ生レシヤ○福山ハ舊誰氏ノ治所ナリシヤ○福山ノ

産物ハ如何○福山城ハ今ヨリ何年前ノ建築ナリヤ○鞆ト尾道トノ間ハ海上幾里アリヤ○保命酒ノ名産地ヲ問フ○松濱港ハ如何○糸崎ハ古名ヲ何ト云フヤ○本郷ノ東北二里ニ在ル寺ノ名ヲ問フ○忠海ハ尾道ヲ距ル海上幾里ニ在ルヤ○頼春水ハ何處ノ人ナリヤ○吳ハ何郡ニ属スルヤ○埃宮ノ宮址ハ何村ニ在リヤ○中國第一ノ都會ヲ問フ○廣島ノ南方ニ在ル港ヲ問フ○廣島主要ノ産物ヲ擧ケヨ○可部ハ何故ニ貨物ノ出入多キヤ○可部ノ特産物ヲ問フ○吉田ハ古昔誰氏ノ城市ナリシヤ○三次ノ氣候ハ如何○三谿郡中ノ二小市ヲ問フ○甲山ニ在ル舊寺ヲ問フ○庄原ノ産物ハ如何○奴可郡中ノ二小市ヲ問フ○府中市ノ産物ハ如何

第七章 生 業

人民生業ノ主タルモノハ農業ナリ而シテ北地ハ樵獵坑業

ニ從事スルモノ多シ特ニ採鉄事業ハ最モ盛大ナリ市街地
ハ大抵商業ニ從事ス其他工業ヲ爲スモノアリト雖モ未ダ
盛ナラズ

漁業ハ頗ル進歩セルモノニシテ其盛大農業ニ亞グ安藝郡
最モ盛ニシテ沼隈郡之ニ亞グ製鹽ハ松永灣尾道ノ瀬戸竹
原及ビ生口嶋等ノ海岸ヲ盛ナリトス

復習問題

人民生業ノ主タルモノハ如何○北地ノ人ハ如何ナル職業ニ從事
スルヤ○市街地ハ如何○農業ニ亞グモノハ何業ナリヤ○漁業ノ
盛ナル郡ヲ擧ゲヨ○製鹽ノ盛ナル地ヲ問フ

道路ハ概シテ平坦ナラズ車馬ノ往來ニ不便ナル所多シ是
 縣下ノ山多キガ故ナリ
 國道ハ岡山縣ヨリ木縣ニ入り神邊水越今津ヲ經テ尾道ニ
 通シ尾道ヨリ三原本郷田万里西條海田市廣嶋廿日市玖波
 ナ經テ山口縣ニ入ル此道程四十九里餘ナリ
 尾道ヨリ雲州松江及ビ杵築道ハ雲州國界マテ凡二十五里
 アリ中間ノ驛ヲ市村甲山吉舎三良阪三次及ビ布野トス
 其他伯州米子道ハ福山ヨリ小畠油木及ビ東城ヲ經テ西城
 ニ出ツ尙山陽山陰二道ノ交通ニハ二個ノ道路アリ

復習問題

國道中尾道ヨリ東國界ニ至ルマテノ驛路ヲ問フ○廣島ヨリ以西
 山口縣ニ入ル國道中ノ各驛ヲ舉ケヨ○尾道ヨリ雲州松江及ビ杵

築道ノ中雲州國界マテノ各驛ヲ問フ

第九章 海路

海路ハ甚ダ靜穩ニシテ航路各地ニ通シ諸港ノ間日夜蕃船
 ノ往來アリ瀨船ハ大阪ヨリ鞆尾道竹原瀬戸宇品ノ諸港ヲ
 經テ長州馬關ノ間ヲ航海ス尙福山松濱忠海吳ノ諸港ニ寄
 泊スルモノアリ宇品港ト伊豫國三津濱港ノ間ヲ航海スル
 モノアリ又尾道ヨリ伊豫國今治ノ間(海上十海里)ヲ航海スル
 ノアリ

復習問題

○海路ノ便ハ如何○尾道ト今治トノ海路ハ如何

第十章 習俗

人民ノ性質ハ温順ニシテ文雅ナリ然レモ剛毅忍耐ノ氣力ニ乏シ言語ハ地方ニ由リ稍異ナリト雖モ概シテ明瞭ナリ宗教ハ佛教盛ニ行ハル又神道ヲ奉スルモノアリ

復習問題

人民ノ性質ハ如何○言語ハ如何○宗教ハ如何

第十一章 沿革

足利氏ノ中頃備後ハ山名氏守護ヲ領シテ神邊ニ治シ安藝ハ武田氏守護ヲ領シテ銀山ニ治ス其後天下大ニ亂レ幕府ノ威令行ハレズ守護ノ勢衰ヘテヨリ武人各地ニ據ル天正ノ末毛利元就勢漸ク強大ナ致ス後遂ニ近國十餘州ヲ領ス元就卒シ嫡孫輝元封ヲ襲キ文祿二年廣島城ニ移ル慶長五年徳川家康福嶋正則ヲ藝備ニ封ス后更ニ淺野氏ヲ安藝及ビ備後北部ニ封シ水野氏ヲ備後南部ニ封ス淺野氏廣嶋ニ在リ水野氏神邊ニ在リ後福山ニ移ル是ヨリ藝備管轄ヲ異ニシ明治九年ニ至リ再合一ス

復習問題

毛利元就ハ何ヶ國ヲ領セシヤ○廣島城ハ何時頃誰カ築キシヤ○安藝及ヒ備後北部ニ封セラレシハ誰氏ナルヤ

附記

○著名ナル市邑ノ戸數表

名稱	位置	戸數	名稱	位置	戸數
廣嶋市	(沼田郡) 安藝郡	二万六百余	尾道町	御調郡	四千三百
福山町	深津郡	三千二百余	和庄町	安藝郡	二千四百
三原町	御調郡	二千三百余	三次町	三次郡	千九百
吳	安藝郡	三百八十	鞆町	沼隈郡	千七百余
竹原町	賀茂郡	千三百余	府中市村	蘆田郡	千二百余
海田市	安藝郡	八百余	草津	佐伯郡	八百
松永	沼隈郡	七百	瀬戸田	豐田郡	七百
廣	賀茂郡	七百	瀬戸	安藝郡	七百
嚴嶋町	佐伯郡	七百	吉田	高田郡	七百

可部	高宮郡	六百七十	本浦	安藝郡	二百
向洋	安藝郡	六百五十	忠海	豐田郡	六百五十
上下	甲奴郡	六百	廿日市	佐伯郡	六百四十
大竹	佐伯郡	五百五十	大河	安藝郡	五百五十
玖波	佐伯郡	五百	阿賀	賀茂郡	五百
庄原	三上郡	四百五十	出口	蘆田郡	四百五十
御手洗	豐田郡	四百	東城	奴可郡	四百三十
三ノ瀬	安藝郡	四百	三津	賀茂郡	四百
神邊	安那郡	三百八十	新市	品治郡	四百四十
四日市	賀茂郡	二百八十	今津	沼隈郡	三百三十
甲山	世羅郡	二百四十	本郷	豐田郡	二百六十
三良阪	三谿郡	二百十	西城	奴可郡	二百三十

宮内 品治郡 二百
 吉舍 三谿郡 百九十
 新市 惠蘇郡 百七十
 本地 山縣郡 百三十
 加計 山縣郡 百
 油木 神石郡 八十

布野 三次郡 六十
 市村 御調郡 百四十
 鹿老渡 安藝郡 百
 比和 惠蘇郡 九十
 小島 神石郡 七十

四十

○著名ナル鳴嶼ノ周廻并ニ戸數表

鳴名 所屬ノ郡名 周廻及ヒ戸數
 能美嶋 江田島 安藝郡 廿八里余
 上大崎嶋 豊田郡 十二里半
 巖嶋 佐伯郡 七百里丁

鳴名 所屬ノ郡名 周廻及ヒ戸數
 倉橋嶋 瀬戸郡 廿八里余
 因ノ嶋 御調郡 十里余
 上蒲劔嶋 安藝郡 上七里下四里 余二千三百

生口嶋 豊田郡 六里卅丁
 下大崎嶋 豊田郡 五里半
 似嶋 安藝郡 三里半
 百島 沼隈郡 二里半
 高根嶋 豊田郡 二里余
 豐嶋 豊田郡 二里余
 岩子島 御調郡 一里半
 御調郡 二百四拾

向嶋 御調郡 六里半
 田嶋 沼隈郡 四里余
 佐木嶋 豊田郡 三里余
 横嶋 沼隈郡 二里余
 阿多田嶋 佐伯郡 二里余
 走嶋 沼隈郡 九拾
 宇品嶋 安藝郡 廿七丁
 安藝郡 九拾

藝備
地理
歷史

澁谷福三郎
榮造
校閱
編纂

尾道

芸香堂發行

郷土史談部

緒言

一本書は改正小學教則の主旨に基き高等第一學
年乃生徒をして歴史乃大意を解せしめ郷土を
愛慕する乃情を發揮し以て愛國心を養成する
乃要素を造らんと欲す

一此書再版に際し更に編纂の体を改め稍文体を
變じて趣味を加へ生徒をして通誦記憶に便な
らしむ

一可及的事項を少くし用字を平易にし教師をし
て充分敷衍口授するの餘地を與へたり

明治廿八年三月

藝 備 地理歴史郷土史談の部

目次

- 第一 我が縣
- 第二 玉の浦の尾道
- 第三 工業地たる福山
- 第四 菅茶山
- 第五 蘆田磧の府中
- 第六 建武の忠臣櫻山慈俊
- 第七 世羅の甲山
- 第八 霧の海なる三次
- 第九 安藝の孝子風早審麻呂
- 第十 竹原の頼家

第十一 毛利元就

第十二 中國一の廣嶋

第十三 安藝の宮嶋

藝備地理歴史郷土史談の部

第一 我が縣

我が廣島縣は備後國十郡と安藝國八郡とを合せて成れる縣なり。面積凡五百方里にして其人數は百三十方に餘れり。氣候はあまり寒くもなくまた暑くもなく山海の景色いと美しく種々の産物多し。かゝるよき縣に生れたる吾等はまことに身の幸といふべし。されば此縣の古より今日まどうつりかはりし物語の中にていとも面白き事柄のみを話し聞かせん。

復習問題

廣島縣ハ如何ナル土地ヲ合セテ成レル縣ナリヤ○面積及ヒ人口ヲ擧ケヨ○氣候并ニ山海ノ景如何

第二 玉の浦の尾道

尾道は其昔菅丞相の鳳凰の尾をひろげたるにさも似たりと云はれしより呼びなせりとも又は玉の浦の山の尾の道といへるより起りたりとも云傳へて内海の航路早く開け船舶れのづと集ひ來て人家ますく繁くなり次第に海面を埋め立て、市街とまゝ商賣繁昌して今は縣下の第一と呼はるゝに至れり

此地は斯く由來も舊く隨ひて寺社の創立舊きものいと多き中にも淨土寺西國寺は何れも千年以前の開基にして由緒正しき大寺なり 後方の千光寺山は天正年中杉原元經の居城せし處にして其寺は多田滿仲の再建かりと云ふ

たゞ寺のみならず社も亦古きもの多し 久保の八幡宮は貞觀の昔にたいて建てられたりと云ひ傳へ長江の天神社は菅公の自ら像を寫して留められしにより之を祭れるなりといへり

復習問題

尾道トハ如何○此地ノ繁華トナリシ次第ハ如何○淨土寺并ニ西國寺ハ幾年前ノ開基ナリヤ○千光寺山ハ誰ノ居城ナリシヤ○長江ノ天神社ハ如何ナル由緒アリヤ

第三 工業地たる福山

福山は凡ろ二百七十年前領主なる水野勝成の神邊より移りて城を築き是より漸く繁華の地となれり 今の後阿部

氏此地を領するに至りて福山十萬石と稱へられ中々盛かる城下かりしも明治維新の時よりにはかに衰へ近來再び繁昌して工業地とはなれり

復習問題

福山ハ幾年前誰ノ爲メニ開カレシヤ○阿部氏ハ何万石ヲ領セシヤ○現今ハ如何ナル土地トナリシヤ

第四 菅茶山

菅茶山は神邊の人なり幼きより學問を好み京都に行きて修業しいとも詩よ巧みにして其名は海内にとゞろけり此地は建武のころ備後の守護淺山氏の城を築ける處にして今ころ衰へたれどももと備後の東部に於ける有名の土地なり

地かり

復習問題

菅茶山ハ何處ノ人ナリヤ○神邊ハ建武ノ頃誰ノ居城セシ所ナリヤ

第五 蘆田磧の府中

府中市は其昔蘆田川の磧にして市街は近傍の土地にありしと水野氏の時河流を他にかへて人家を今の地に移せしかり傳へ云ふ上古備後の國府は栗柄乃内にありき由て府中の名ありと

復習問題

府中市ハ其昔如何ナル土地ナリシヤ○水野氏ハ如何ニ市街ヲ作

第六 建武の忠臣櫻山慈俊

慈俊名は元正髪を削りて慈俊と號す清和帝の末孫三郎正盛の長男なり父正盛櫻山城に居れり依て氏とさせり元弘元年楠正成の兵を擧ぐるや慈俊も亦義兵を起して之に應一宮城に據る同年十月後醍醐天皇笠置を落させ玉ひ正成自殺したりと聞ゆ一は烏合の兵士れひく潰散して残るは一族郎等二十餘人とはなりぬ慈俊事の成らざるを知り吉備津社に詣り妻子を刺殺し社壇に火を放ち慈俊はじめ一族郎等二十四人と自刃して焚死せりと明治十五年縣知事千田氏有志と相謀り櫻山神社を造營す廟宇今猶嚴

然たり

復習問題

慈俊ノ系譜ヲ問フ○慈俊ノ兵ヲ擧ゲシ始末ヲ記セ○櫻山神社ハ誰ガ首唱シテ造營セシヤ

第七 世羅の甲山

世羅郡ある甲山は戦國のところ毛利元輔の居城せし處にて今尚ほ城跡のしるしあり今高野山は嵯峨天皇の時僧空海の開基にして近國稀なる寺なりしが當時はいたく破損せり

復習問題

甲山ハ誰ノ居城セシ處ナリヤ○今高野山ハ何天皇ノ時誰カ開基

第八 霧の海なる三次

三次の地は縣下の北部にありて晴日には毎朝霧ふかく高處より之を望めはさも海に似たりもて三次の霧の海と稱へらるるの土地高く氣候の頗るさむき推して知らるべしされども海邊のみなどより山陰道に通するの要路に當り古來大切の處なれば淺野家の入國せられ一時一族なる長治惠蘇三次の二郡五万石を領して此地に在城ありしが三代を経てつぎ絶に其後分家ありしもふた、び絶にたり

復習問題

三次ノ氣候ハ如何○此地ハ何故ニ大切ノ處ナルヤ○淺野家ノ入

國後始メテ在城セラレシハ誰ナルヤ

第九 安藝の孝子風早審麻呂

天長のむかし賀茂郡風早村早田原村の古名に風早審麻呂といへる人あり神職の家の子にして父母に事へて孝養いと厚く人に接すること懇にして坐作進退の辭かなる等世の人の及ぶべくもあらざ父母歿するの後は憂ひいたみて能く能はざ二靈を祭ること生けるものに事ふるが如くなりしかば朝廷より三階に叙せられ戸に附ての調田に附ての租稻を納むることを免せられて其篤實孝順とあらはされたりと今も該村には毎年十月盛に祭典を行ふて尊崇せりと云ふ

復習問題

風早審麻呂ハ何時頃ノ人ナリヤ○又何處ノ人ナリヤ○人トナリ
 ハ如何○父母ノ後如何ナル孝道ヲ盡セシヤ○朝廷ヨリ如何ニ賞
 セラレシヤ○祭典ハ何時ナリヤ

第十 竹原の頼家

山陽先生の名は今や海内に隠れなく歴史家としても文章
 家としても勤王家としても非常の人物なりしがろも何處
 の人なりと問ハゞ我縣下なる竹原の人なりと知るべし
 其父なる春水も亦有名の人にして品行殊に正しく決して
 情容なかりしとぞ 又山陽の末子三樹三郎は勤王の志頗
 る厚く愛國の情も深かりしが徳川政府の爲めに刑せられ

たりあ、頼家の譽はこれ我縣の譽にあらざや

復習問題

山陽先生ハ如何ナル人物ナリヤ○先生ハ何處ノ人ナリヤ○春水
 ノ品行ハ如何○三樹三郎ノ性行ハ如何

第十一 毛利元就

元龜天正の頃日本國中戦争の止み間もなき時に當りて我
 縣下なる吉田の地に起りて後には山陽山陰の十三ヶ國を
 領し天下の將軍ともなるへき勢ありし毛利元就は其昔餘
 倉にて源頼朝を助けて天下を平定せし大江廣元の後胤な
 り 元就の勢強大となるや吉田の繁華は實に京都に亞け
 りと云ふ是れ三百餘年前のことなり

復習問題

毛利元就ハ何處ニ起リシヤ○毛利氏ノ勢力如何○元就ノ祖先ハ誰ナリヤ○吉田ノ繁華ハ如何○毛利氏ノ盛ナリシ頃ハ今ヨリ何年前ナリヤ

第十二 中國一の廣嶋

廣嶋の地たる元入海なりしが後所々に人家を建て農業を事とするに至り分て五箇莊又は五ヶ村と呼べりと云ふ天正十七年毛利元就の孫輝元自ら此地を見立て二宮某に命して城を築かゝめ凡十年を経て成就し吉田より移りて名を廣嶋と改め是より繁華の地とされり慶長五年毛利氏長州に移り福嶋正則藝備兩國を領して此城に居ること

二十年元和五年淺野長晟紀州より入りて四十二万石を領し此に在城す十二代長勳に至りて去る淺野氏の居ること實に二百五十三年なり

復習問題

廣島ノ地ハ元如何ナル土地ナリシヤ○廣島城ハ何時頃誰ノ築キシ所カ○福島氏ハ何年間在城セシヤ○淺野氏ハ何万石ヲ領セシヤ

第十三 安藝の宮島

日本三景の其一に數へらる、我宮嶋は獨り景色の他に比類なきのみならず歴史上最も有名なる戰のありし處なり弘治元年毛利元就は大内家の逆臣陶全姜といへるを此

地に誘ひて攻め殺したり 而して元就は大内家の爲めに
仇を復しければ諸國の武士其義理の深きに感じて歸する
ものいと多く是より兵威俄に振ふに至れりとぞ

復習問題

毛利元就ハ宮島ノ地ニ於テ如何ナル事ヲナセシヤ○諸國ノ武士

毛利氏ニ歸スル者多キハ何故カ

明治二十八年三月三十日印刷

(定價十錢)

明治二十八年四月十日發行

編輯者

三谷福三郎

廣島縣御調郡尾道町字久保三百六十三番邸

發行者

兒玉保兵衛

廣島縣御調郡尾道町字久保千七百十九番邸

大阪市西區鞆下通二丁目四十八番邸

印刷者

瀬戸清次郎

廣島縣御調郡尾道町字久保千七百二十番邸

發賣者

兒玉芸香堂

x761

